

重点課題

【課題1】 文の中における主語と述語との関係に注意して、文を正しく書く。
 (A [5]) (平均正答率 20.0%) つながりの合っていない文を選んだ児童が60%もいる。

【課題2】 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。
 (B [2]二) (平均正答率 17.5%) 目的や意図に応じて必要な情報を取り出して書く問題の条件の片方だけ正答者が35%であった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】・ 全学年を通して帯タイムを活用して読みとり問題に継続して取り組み、主語と述語の関係を理解できるようにする。
 ・ 発表の際には、主語と述語を意識させながら話させるように指導を繰り返す。
 ・ 「川尻っ子ノート」や普段の日記、作文など文章を書かせる場合、主語と述語を意識させながら書かせ、間違っている場合は必ず指導を行い、正しく書けるようにする。

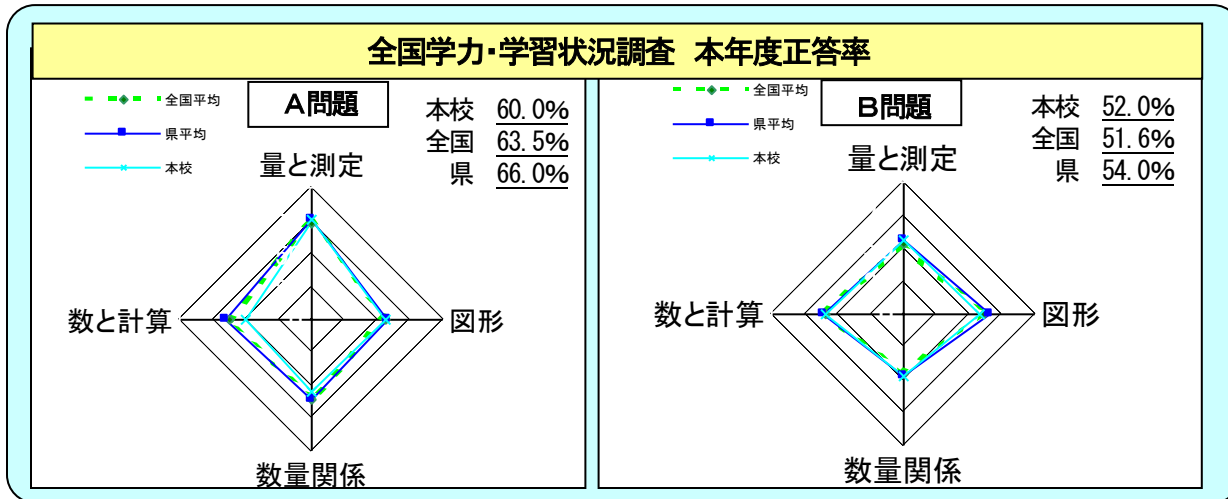
【課題2】・ 「書かせる場合」事実と感想や意見等を区別させると共に目的や意図に応じるようにさせる。国語科を中心に理科や社会科など全ての学習で意識させながら書かせるようにする。
 ・ 「帯タイム」などを使い、「目的や意図に応じた文を書く」学習を計画的に行う。

※ 小中一貫した取組については、「文章の構成や展開を捉えた上で必要な情報を取り出し、根拠を明確にしながら条件内でまとめていく学習を行う。」

【課題1】	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
学年・方法		5年第1回模擬テスト(A [5])	4年第1回模擬テスト(A [5])	4・5年第2回模擬テスト(A [5])	全学年学力標準テスト	5年生H30「全国学力」A	4・5年生学期末テスト
目標値		50%	50%	70%	80%	75%	80%
実施後数値							

【課題2】	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
学年・方法		5年第1回模擬テスト(B [2]二)	4年第1回模擬テスト(B [2]二)	4・5年第2回模擬テスト(B [2])	全学年学力標準テスト	5年生H30「全国学力」B	4・5年生学期末テスト
目標値		50%	40%	70%	80%	70%	80%
実施後数値							

来年度に向けて



重点課題

【課題1】・円周率の意味について理解している。(A 7 (1) (本校正答率本校 32.5%) 円周と直径の言葉の関係を正しく理解していない児童の割合 65%いた。

【課題2】・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを理解し、それを記述できる。(B 3 (1) (本校正答率 20.0%) 無回答の児童が 15.0%と全体の中でもかなり高い。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】・用語と求める公式の関係について意味理解が確実に出来るようにすると共に、その式を使った問題を何度も行うことで定着を図る。

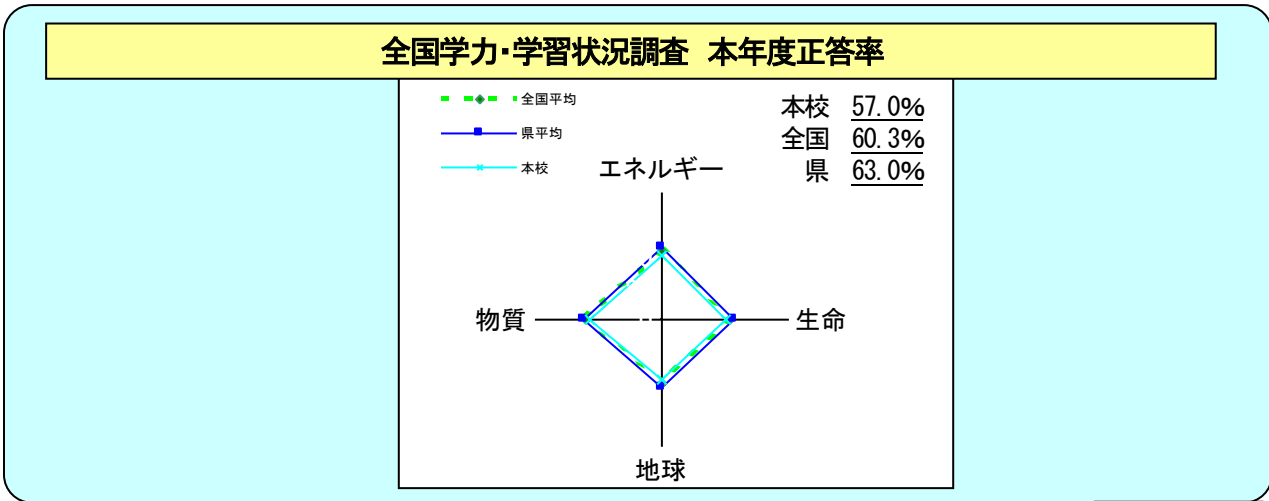
【課題2】・グラフの読み取りを複数の視点でおこなうようにする。
 ・グラフの表題から「棒グラフ」「帯グラフ」を読み取る問題を意識して行わせる。
 ・「社会科」との関連を図り、グラフ資料の読み取りの際に常に意識させるようにする。

※ 小中一貫した取組については、「単位に着目して数量を捉え、図・グラフ・表・式等の数学的表現を利用して自分の考えをまとめて書く活動を意識して行う。」

【課題1】	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
学年・方法		5年第1回模擬テスト1回目 (A問題)	類似問題	5年第1回模擬テスト2回目 (A問題)	全学年学力標準テスト	類似問題	4・5年生学期末テスト
目標値		50%	60%	70%	80%	80%	80%
実施後数値							

【課題2】	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
学年・方法		5年第1回模擬テスト1回目 (B問題)	類似問題	5年第1回模擬テスト2回目 (B問題)	全学年学力標準テスト	類似問題	4・5年生学期末テスト
目標値		40%	50%	60%	80%	70%	80%
実施後数値							

来年度に向けて



重点課題

【課題1】・より妥当な考えを作り出すために、実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述できる。②(3) 本校正答率15% 番号を正しく選べても、理由を2つのキーワードで正しく書けていない児童の割合が高い。

【課題2】・実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる。④(4) 本校正答率40.0% 無回答児童の割合8.9%であった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題1】・事象に対して「予想」を立てさせる。それを元に「仮説」→「実験」（検証）→「考察」の実験サイクルを行い分析を行うことで問題解決学習を実践していく。
 ・それぞれの単元の終わりに「理由を読み取ったり、記述する問題」を設定し、習得した知識を基に活用できるように仕組む。

【課題2】・実験や観察で分かったことを絵や図又は言葉を使って説明することができるように3年生から段階的に指導の継続を行う。

※ 小中一貫した取組については、「実験結果を根拠として、表やグラフを使いながら、実験を目的に合うよう考察を繰り返し行うようにする。」

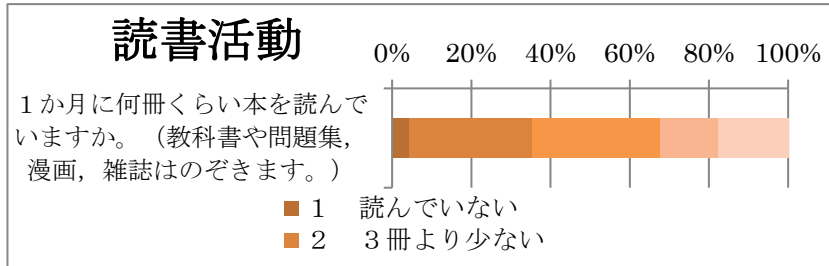
【課題1】	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
学年・方法		5年第1回目模擬テスト ②(3)	類似問題	5年第2回目模擬テスト ②(3)	H30全国学力テスト	類似問題	4・5年生学期末テスト
目標値		40%	50%	60%	60%	70%	80%
実施後数値							

【課題2】	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
学年・方法		5年第1回目模擬テスト ④(4)	類似問題	5年第2回目模擬テスト ④(4)	H30全国学力テスト	類似問題	4・5年生学期末テスト
目標値		40%	50%	60%	60%	70%	80%
実施後数値							

来年度に向けて

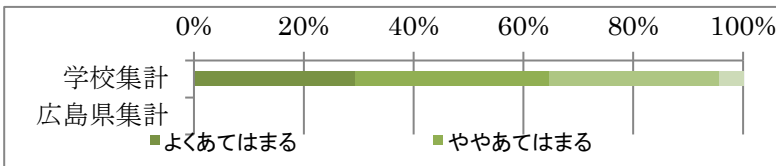
2 質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査) (全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査)

(1) 生活・学習

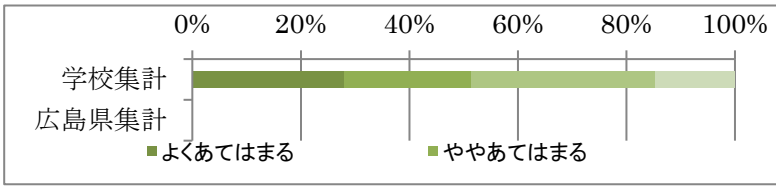


(2) 教科

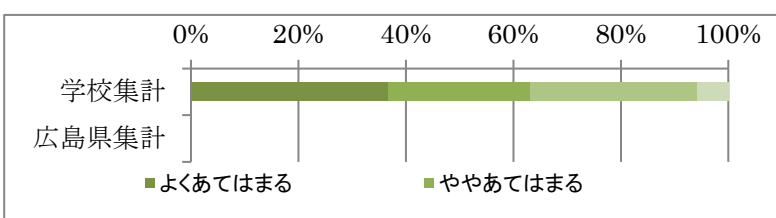
国語の授業では, 目的に応じて資料を読み, 自分の考えを話したり書いたりしている。



算数の授業では, とき方や考え方を絵や図などに表して考えています。



理科の授業では, 観察や実験の結果をノートやグラフ, 表などに記録したり記述したりする方法について学んでいます。



	児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
基礎・基本	1ヶ月に3冊以上本を読んでいる児童の割合が35%を越えている。	全学年対象に「読書貯金」の取り組みを行い, 優秀児童を表彰することで読書量の割合を増やすようにする。	全	3年生以上児童400ページ	毎月, 学級児童による自己申告	12月		
全国	「学校の授業時間以外に, 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 読書を読みますか」の質問で1時間以上と答えた児童の割合15%	全学年対象に「読書貯金」の取り組みを行い, 優秀児童を表彰することで読書量の割合を増やすようにする。	全	3年生以上児童400ページ	毎月, 学級児童による自己申告	12月		

	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	基礎・基本 国語の授業では, 目的に応じて資料を読み, 自分の考えを話したり, 書いたりしています。肯定的評価64.7%	授業で目的に応じて資料を選択し, そこから分かる情報をナンバリングして整理するなどの学習を行う。また, 自分の考えを発表させる場を必ず設けるようにする。	4 5 6	肯定的評価80%	児童アンケート	12月		
算数	基礎・基本 算数の授業では, とき方や考え方を絵や図などに表して考えています。肯定的評価51.5%	「教えて考えさせる授業」の授業研究を進めると共に, 予習ノートをさせることで, 解決への多様な手段を考えさせ, 授業で解決させるようにする。	4 5 6	肯定的評価75%	児童アンケート	12月		
算数	全国 「算数の授業の内容はよく分かりますか。」の質問に「良く分からない」と答えた児童が約10%	「教えて考えさせる授業」の授業研究を進めると共に, 児童が活躍し, 「分かった」と実感出来る授業づくりを行う。また放課後の学力補充学習の充実を図る。	全	「よく分からない児童の割合5%以下	児童アンケート	12月		
理科	基礎・基本 理科の授業では, 観察や実験の結果をノートやグラフ, 表などに記録したり記述したりする方法について学んでいます。肯定的評価63.3%	理科の実験結果をノート等にまとめる際に, 表だけでなくグラフを使用することで考察しやすくなることを児童が実感できるように繰り返し指導する。	3 4 5 6	肯定的評価80%	児童アンケート	12月		
理科	全国 理科の授業で, 観察や実験の進め方が間違っていないか振り返って考えていますかの質問の肯定的評価は高いが「当てはまる」と答えた児童の割合24.4%と全国・県平均を下回っている。	実験結果を基にまず自分で, 「考察」させる。必ずペアやグループで話し合うことで検証の方法である実験や観察方法自体が良かったのかを振り返る習慣を身につけさせる。	3 4 5 6	当てはまる評価35%	児童アンケート	12月		